

平成 27 年 3 月 3 日
在ポルトガル日本国大使館

東博史大使からのメッセージ

早春の候、アーモンドや梅の花も咲き始め、次第に春めいて参りましたが、皆様におかれましては、御健勝にて、御活躍のことと存じます。

今回は、「安倍総理ポルトガル訪問のフォローアップ」及び「コエーリョ首相訪日の準備」の一環として、「アルガルヴェ地方」訪問、サンタ・マリア・ダ・フェイラ市における「最先端医療研究センター」の開所式、「フィゲイラ・ダ・フォス市」訪問、「日本観光セミナー」の開催について御紹介致したく存じます。

● 「アルガルヴェ地方」訪問

2月2日及び3日、私はファーロ市の「アルガルヴェ大学」、オリアオン市の「EPP0（水産養殖研究センター）」、「TUNIPEX 社」及び「DOCAPESCA」、並びに「ヴィラ・ド・ビスポ市」を訪問しました。

（各訪問の会談の冒頭、私から、「（1）昨年5月の安倍総理のポルトガル訪問を契機として、両国関係は政治、経済、文化等あらゆる面で活発化している。（2）また、昨年7月には我が国はポルトガル語圏諸国共同体（CPLP）にオブザーバーとして加盟した。これにより、日・ポルトガル関係は単に二国間関係に留まらず、CPLP 諸国における協力にまで視野が広がっている。

（3）更に、本年第1四半期には、パッソス・コエーリョ首相の訪日が予定されており、「アルガルヴェ地方」においては、特に「水産分野」での協力強化を図っていきたいと考えている旨」説明しました。）

（1）「アルガルヴェ大学」訪問では、同大学から水産養殖分野での高い実績を持つ日本の大学との間での連携強化についての希望が寄せられました。これに対し、私からは、非常に喜ばしいことであり、大使館として協力できることがあればご連絡いただきたいと述べました。

（2）オリアオン市の「EPP0（水産養殖研究センター）」、「TUNIPEX 社」及び「DOCAPESCA」（卸売市場）訪問に際しては、今後の水産分野での両国間の関係強化の方途について意見交換を行いました。

（3）「TUNIPEX 社」は、1995年からポルトガルで日本式定置網漁を行い、大西洋クロマグロを輸出しており、オリアオン市にとって非常に重要な存在感のある企業の1つとなっている旨現地の方から直接伺い、その活躍ぶりに感銘を受けました。

（4）「ヴィラ・ド・ビスポ市」は、種子島の西之表市と姉妹都市（1993年から）であり、今回の訪問を契機として、今後、人的交流、文化交流に加えて、水産分野等経済関係の強化にも努力することについて、意見が一致しました。

● 2月4日、私は、サンタ・マリア・ダ・フェイラ市における「最先端医療研究センター」の開所式に出席しました。

(1) サンタ・マリア・ダ・フェイラ市（ポルト市から南に約25kmの所に位置する人口約14万人の都市）に「Lenitudes 社」が設立した新しい医療研究センターは、ヨーロッパの中でも、また、国際的にも最先端の医療設備（細胞の細部まで見ることが可能な非常に高度で精密な画像処理技術、ナノテクノロジーを駆使した最先端の手術機器等により迅速かつ効果的ながん治療が可能）を有し、学際的ながんの研究・治療センターとして、国内だけでなく、海外からも含めて年間約1500人の患者を治療できる施設を目指しています。今般の開所式は2月4日の「世界がんデー」に合わせて行われました。

(2) 同日、パソス・コエリョ首相が、本開所式に出席し、保健分野（含む高齢者対策）における民間活力の活用の重要性等を強調するスピーチを行いました。なお、開所式終了後、私はパソス・コエリョ首相に歩み寄り挨拶を行ったところ、同首相からは、「この医療施設のように保健分野における日本の民間投資を期待している」旨の返答がありました。

(3) 昨年5月に安倍総理はリスボンの最先端の医療研究施設である「シャンパリモー財団」を訪問されましたが、本医療研究センターは、パソス・コエリョ首相の出身地に近い北部地域におけるシャンパリモー財団に匹敵する民間投資による最先端医療研究施設として位置づけられる模様です。

(4) 今後、長期的な視点で、「高齢化社会に対応するための産業、医療分野」における両国間の官民の協力強化について検討していくことが重要と考えられます。

● 「フィゲイラ・ダ・フォス市」訪問

2月9日、私は、当国中部フィゲイラ・ダ・フォス市の「ジョアン・アタイーデ市長」を表敬するとともに、「Lusiaves 社」及び「Briosa 社」を訪問しました。

(1) 「フィゲイラ・ダ・フォス市長」表敬訪問（「なお、同表敬は、市庁舎ホールにて、セレモニー形式で実施され、市議会議長、市議会議員、同市助役他幹部職員、ビジネスマン、歴史学者、報道関係者等約40名が参列しました」）

ジョアン・アタイーデ市長からは、「東大使のご訪問を心より歓迎する、本日の東大使の訪問が、最先端の技術力と経済力を有する日本企業によるフィゲイラ・ダ・フォス市への投資、日本人観光客の来訪に結びつくことを期待している」、という趣旨の歓迎の言葉をいただきました。

これに対して、私からは、フィゲイラ・ダ・フォス市では、日本の「丸紅」が「産業革新機構」と共に買収した「AGS 社」が、同市で水道事業を行っている「Aguas da Figueira 社」の株式を取得して同市での水道事業に参入していますが、本年第一四半期に検討されているパソス・コエリョ首相の訪日を更なる契機として、フィゲイラ・ダ・フォス市への日本企業の進出、日本人観光客の来訪が活発化することを期待している旨申し上げました。

また、私は、この機会に地域の代表的な企業である「Lusiaves 社」や「Briosa 社」等を訪問し、今後の両国間の貿易・投資の促進の方途について検討するとともに、日本人観光客の来訪をどのように図るかについて今後検討していきたいと考えております。

(2) 「Lusiaves 社」訪問

ア 「Lusiaves 社は、1986年に創業した鳥肉加工業者で、現在、1500人の従業員、14か所の配送拠点を有し、ポルトガル国内各地に商品を届けており、ポルトガル国内におけるシェアは80%程度に及びます。主な商品は、鶏精肉、鶏肉を使用したフライドチキン等の加工品であり、年間売上げは約28億ユーロに上ります。

イ 先方から、「現在は、ヨーロッパ諸国の他、ベトナム、香港、アフリカ諸国に輸出している。また、香港を経由して中国にも輸出している。現在、中東諸国への輸出を検討しているところであるが、是非日本へも輸出していきたい」との要望がありました。

ウ これに対し、私からは、「2007年のポルトガルでの低病原性鳥インフルエンザの発生を受け、ポルトガルから日本への「家禽」及び「家禽肉」の輸入が停止されている。今後、輸入停止措置の解除に向けて何らかの進展が得られることを期待している」と述べました。これに対し、先方は、「同社の商品はIPSの認証も取得しており、食品安全性には細心の注意を払っている。日本への輸出の実現に向けて支援頂きたい」旨の要望が寄せられました。

(3) 「Briosa 社」訪問

同社は、1991年に創業した魚の缶詰製造メーカーで、フィゲイラ・ダ・フォス市で水揚げされたイワシ、サバ、マグロ、タラを用いて缶詰を製造しております。主な販売先は、ポルトガル国内の他、ヨーロッパ諸国であり、その他の輸出先としては、シンガポール、香港、マカオ、米国、カナダ、アフリカ諸国があり、今後、「日本への輸出を実現したい」との要望が寄せられました。

●日本観光セミナーの実施

昨年5月の安倍総理のポルトガル訪問の際の「共同コミュニケ」において、「観光分野での協力」が挙げられています。この関連で、リスボン観光フェア(BTL)開催の前日、2月24日、日本国大使館と日本政府観光局(JNTO)パリ事務所の共催にて、ポルトガル旅行業界関係者、航空会社、政府関係者等を対象として日本観光プロモーションを目的とした「日本観光セミナー」を、大使公邸で開催致しました。同セミナーでは、私から日本の観光政策と二国間の観光面での交流促進に関する挨拶を行った後、ヌーネス観光担当副大臣がポルトガルの観光政策を紹介しました。その上で、高橋広治 JNTO パリ事務所長、小野恵美 JETRO リスボンリエゾンによる日本観光の魅力についてのプレゼンテーションが行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

ここ2年間で、両国間の観光客数は大きく伸びていますが、この背景には、昨年5月の安倍総理訪問後の両国間の人的交流の拡大があると見ています。

私は、観光セミナー開催の翌日の2月25日には、「リスボン観光フェア」(BTL)の開会式に参加し、ヌーネス観光副大臣はもとより、来訪されたパソス・コエリョ首相にもお会いし、観光分野での両国間の関係強化について確認することができました。また、来年2016年のBTLには是非「日本」としてブースを設け、出展したいと考えています。

3月に入り、季節の変わり目となりますが、皆様におかれましては、御自愛の上御活躍されますようお祈り申し上げます。